

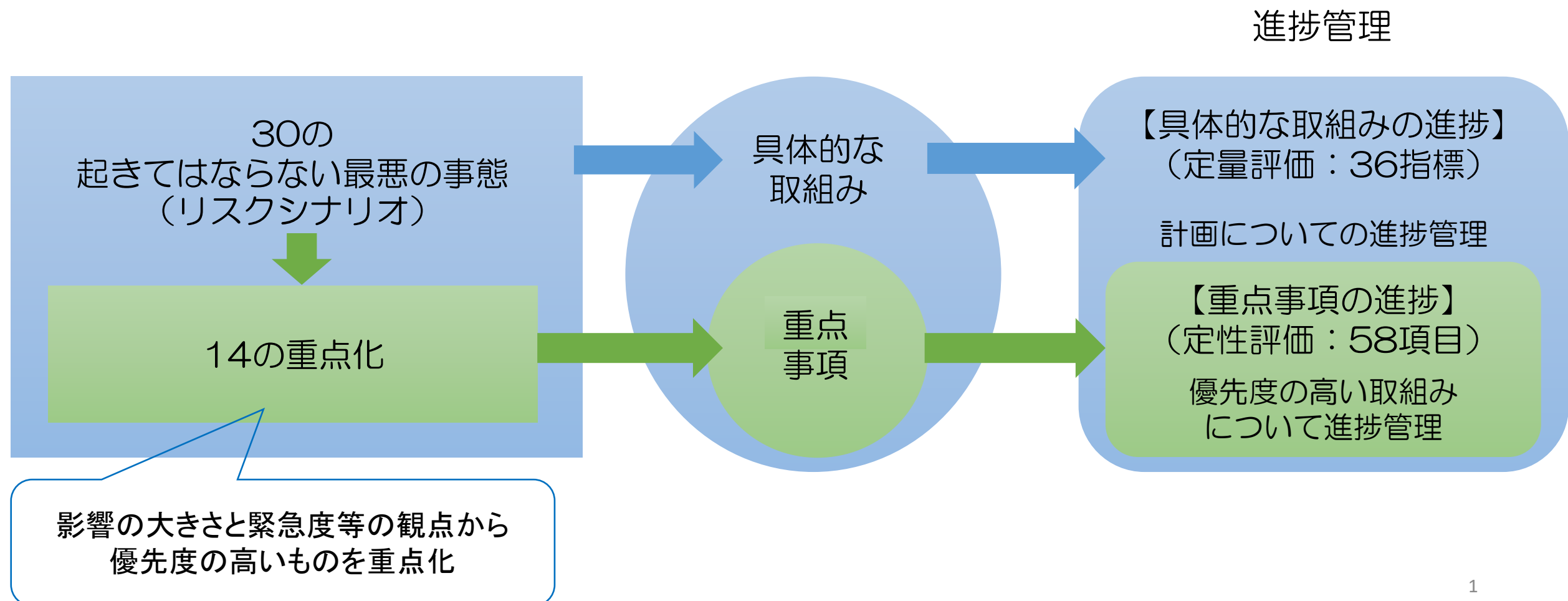
○計画の進捗管理について

◆本計画では、本市における30の「起きてはならない最悪の事態（リスクシナリオ）」と、それに対応するための「具体的な取組み」を設定しています。

◆また、30の「起きてはならない最悪の事態（リスクシナリオ）」のうち優先度の高いものを重点化として14項目抽出し、それに対する「具体的な取組み」を「重点事項」としています。

◆進捗管理は「具体的な取組み」と「重点事項」について毎年度行います。

- 具体的な取組み：指標を用い達成度を定量的に把握・評価して、計画の進捗管理を行います。
- 重点事項：定性的に把握して、進捗管理を行います。



○進捗状況について

◆指標の推移について

- 本計画では36の指標を設定しています。4割強の指標において目標を達成、また、取組中のものでも全体の4割強の指標が昨年度に比べ上向きに推移しています。

指標の推移			
取組み状況(単位:指標数)			
達成	上向き【↗】	横ばい【→】	下向き【↘】
14	14	4	0
43.8%	43.8%	12.5%	0.0%

＜指標の推移の定義＞	
【 達成 】	令和6年度に目標を達成した指標
【上向き(↗)】	目標達成はしていないが、昨年度よりも 上昇傾向の指標
【横ばい(→)】	昨年度と達成度が変わらなかったもの
【下向き(↘)】	昨年度と比較して達成度が下降した指標

※実績値の比較ができなかったものおよび評価対象外の指標を除く（計4指標）

（備考）なお、指標には、計画最終年度の令和6年度以降を目標年度とする指標も含まれており、計画期間（令和6年度まで）が終了しても100%達成とはならない計画になっています。令和6年度までを目標年度とする指標（23指標）の達成率は、60.9%です。

指標の推移(令和6年度までを目標年度とする指標:23指標)			
取組み状況(単位:指標数)			
達成	上向き【↗】	横ばい【→】	下向き【↘】
14	7	2	0
60.9%	30.4%	8.7%	0.0%

○進捗状況について

- ◆「起きてはならない最悪の事態（リスクシナリオ）」ごとの状況について
- ・ 30の「起きてはならない最悪の事態（リスクシナリオ）」と14の重点化として設定したリスクシナリオに対応する指標の達成状況は以下のとおりです。
- （注：指標は複数のリスクシナリオに対応しているため、重複して掲載しています。）

起きてはならない最悪の事態 (※)は重点化として設定したもの	指標の達成状況（単位：指標数）						
	取組み状況						達成率
	取組数	達成	上向き	横ばい	下向き	実績値なし	
1－1 (※) 住宅・建物・交通施設等の複合的・大規模倒壊や不特定多数が集まる施設の倒壊による多数の死傷者の発生	23	7	11	3	0	2	30.4%
1－2 (※) 密集市街地や不特定多数が集まる施設における大規模火災による多数の死傷者の発生	19	7	7	2	0	2	36.8%
1－3 (※) 大規模津波等による多数の死傷者の発生	14	7	6	2	0	0	50.0%
1－4 (※) 突発的又は広域かつ長期的な市街地等の浸水による多数の死傷者の発生	14	7	6	2	0	0	50.0%
2－1 (※) 被災地での食料・飲料水・電力・燃料等、生命に関わる物資・エネルギー供給の停止	12	3	5	1	0	0	25.0%
2－2 (※) 警察、消防等の被災等による救助・救急活動等の絶対的不足	14	2	5	2	0	1	14.3%
2－3 想定を超える大量の帰宅困難者の発生、混乱	4	1	3	0	0	0	25.0%
2－4 (※) 医療施設及び関係者の絶対的不足・被災、支援ルートの途絶、エネルギー供給の途絶による医療機能の麻痺	8	2	3	2	0	1	25.0%
2－5 被災地における疫病・感染症等の大規模発生	9	4	3	1	0	1	44.4%

○進捗状況について

起きてはならない最悪の事態 (※)は重点化として設定したもの	指標の達成状況（単位：指標数）						
	取組み状況						達成率
	取組数	達成	上向き	横ばい	下向き	実績値なし	
2－6 (※) 劣悪な避難生活環境、不十分な健康管理による多数の被災者の健康状態の悪化・死者の発生	10	6	4	0	0	0	60.0%
3－1 職員・施設等の被災による機能の大幅な低下	9	3	3	1	0	1	33.3%
4－1 (※) 防災・災害対応に必要な通信インフラの麻痺・機能停止	21	10	9	1	0	1	47.6%
4－2 テレビ・ラジオ放送の中断等により災害情報が必要な者に伝達できない事態	13	7	5	1	0	0	53.8%
4－3 (※) 災害時に活用する情報サービスが機能停止し、情報の収集・伝達ができず、避難行動や救助・支援が遅れる事態	14	9	4	1	0	0	64.3%
5－1 (※) サプライチェーンの寸断等による企業の生産力低下	18	6	8	3	0	1	33.3%
5－2 重要な産業施設の損壊、火災、爆発等	13	2	8	2	0	1	15.4%
6－1 (※) 上水道等の長期間にわたる供給停止	4	1	3	0	0	0	25.0%
6－2 汚水処理施設等の長期間にわたる機能停止	4	1	3	0	0	0	25.0%
6－3 (※) 交通インフラの長期間にわたる機能停止	6	0	3	2	0	1	0.0%
6－4 防災インフラの長期間にわたる機能不全	7	2	3	1	0	1	28.6%
7－1 (※) 地震に伴う市街地の大規模火災の発生による多数の死傷者の発生	7	2	3	1	0	1	28.6%

○進捗状況について

起きてはならない最悪の事態 (※)は重点化として設定したもの		指標の達成状況（単位：指標数）						
		取組み状況					達成率	
		取組数	達成	上向き	横ばい	下向き		実績値なし
7-2	沿線・沿道の建物倒壊に伴う閉塞、地下構造物の倒壊等に伴う陥没による交通麻痺	16	3	9	2	0	2	18.8%
7-3	ため池、防災インフラ等の損壊・機能不全や堆積した土砂の流出による多数の死傷者の発生	14	3	8	2	0	1	21.4%
7-4	有害物質の大規模拡散・流出による国土の荒廃	3	1	2	0	0	0	33.3%
7-5	農地・森林等の被害による国土の荒廃	3	1	2	0	0	0	33.3%
8-1	大量に発生する災害廃棄物の処理の停滞による復興が大幅に遅れる事態	4	1	3	0	0	0	25.0%
8-2	復興を支える人材等（専門家、コーディネーター、労働者、地域に精通した技術者等）の不足、より良い復興に向けたビジョンの欠如等により復興できなくなる事態	4	1	2	1	0	0	25.0%
8-3	広域地盤沈下等による広域・長期にわたる浸水被害の発生により復興が大幅に遅れる事態	3	1	1	1	0	1	33.3%
8-4	貴重な文化財や環境的資産の喪失、地域コミュニティの崩壊等による有形・無形の文化の衰退・損失	17	8	7	1	0	1	47.1%
8-5	事業用地の確保、仮設住宅・仮店舗・仮事業所等の整備が進まず復興が大幅に遅れる事態	4	1	1	1	0	1	25.0%

○進捗状況について

- 北大阪消防指令センターの運用開始により、豊中市と周辺自治体が連携した広域的な消防指令体制が確立されました。
- 避難所受付システムやLINE機能を活用した職員参集システムの導入により、より迅速で的確な災害対応ができるよう、体制を整備しました。
- 校区自主防災組織は、令和6年度に新たに一つ結成されるなど、この5年間をとおして、3つの校区自主防災組織が結成され、地域の防災力向上につながりました。

○今後の取組みと目標について

- デジタル安否確認システムの導入等、デジタルを活用した防災の取組みにより災害時の迅速な避難誘導体制を確立します。
- 直下型地震の被害想定の見直しを受け、地域防災計画やマニュアルの改正、市の防災体制を再構築します。
- 第2期強靱化計画では、引き続き、地域防災計画と整合を図りながら、豊中市の強靱化を総合的、計画的に進めるため、進捗状況等を毎年度、定期的に把握、検証し、必要に応じて見直しを行うなど、PDCAサイクルを繰り返して、取組みを推進します。

○第1期豊中市強靱化地域計画の総括

取組み結果

この5年間で進んだ主な取組みは以下のとおりです。

【災害に強いまちづくり】

- ・ 穂積菰江線及び利倉橋を全線開通させ、密集市街地の解消や歩行者の安全確保等に向けた取組みを進めました。(令和3年度)
- ・ 令和7年度完了に向けて、トイレトラックの導入や設置対象の学校体育館への空調設置を進め避難所の環境整備を行いました。

【災害対応能力の向上】

- ・ 北大阪消防指令センターの運用開始により、豊中市と周辺自治体が連携した広域的な消防指令体制が確立されました。(令和6年度)
- ・ 避難所受付システムや職員参集システムが導入により、より迅速で的確な災害対応ができるよう体制を整備しました。(令和6年度)

【防災意識と地域の防災力の向上】

- ・ 個人の防災行動計画を作成できるマイタイムライン作成支援ツールを導入(令和5年度)し、市民の防災意識向上につなげました。
- ・ 令和5年度より全市一斉防災訓練を開始し、令和6年度には過去最大規模となる約3,000人の市民が参加しました。
- ・ 校区自主防災組織は、令和6年度に新たに一つ結成されるなど、この5年間をとおして、3つの校区自主防災組織が結成され、地域の防災力向上につながりました。

総括

- ・ P2に記載のとおり、本計画で設定している36の指標のうち、4割強の指標において目標を達成、また、取組中のものでも全体の4割強の指標が前年度に比べ上向きに推移しており、計画全体はおおむね順調に進捗しました。
- ・ 指標の中には、計画最終年度の令和6年度までを目標年度とする指標(23指標)の達成指標は14指標で、達成率は60.9%です。なお、未達成の9指標は、防災訓練の実施回数など大部分がソフト事業でコロナの影響を大きく受けたことによるものと考えられます。

※令和6年度以降を目標年度とする指標(11指標)も含まれており、計画期間(令和6年度まで)が終了しても100%達成とはならない計画になっています。

＜今後の方針＞

第2期豊中市強靱化地域計画では、引き続き、地域防災計画と整合を図りながら、豊中市の強靱化を総合的、計画的に進めるため、進捗状況等を毎年度、定期的に把握、検証し、必要に応じて見直しを行うなど、PDCAサイクルを繰り返して、取組みを推進します。

